

エコロジカルな回心 —すべてのいのちを守るため—

川棚修道院

教皇様のご意向に合わせ各自エコロジカルな回心に向けて取り組み始めていた昨年 10 月、川棚純心こども園の聖母行列のマリア様へのお捧げとして SDGs について子供用の教材をもとに各クラスで話し合い、お捧げを準備し当日お花と共に捧げた。そして今年度 4 月から PTA 活動の一つとして、エコキャップなどの回収が行われている。

一方私たち共同体は、本部からいただいた資料をもとに、あらためて分かち合いの時を持ち、今実践していることの確認と、今後の取り組みについて話し合い、エコロジカルな回心をめざした。節電はこれまで同様夜間や不要な場のコンセント抜き、照明なども必要な彩度に合わせ、夏の暑いときはサンシェードを張って熱を遮断している。屋上では季節感あふれる菜園が広がっている。4 月末からは、トマト・胡瓜・茄子・ピーマン・ネギ・にら・三つ葉、そして 6 月にはサツマ芋などプランターで栽培し、

環境浄化と実りを味わっている。肥料は米のとぎ汁に EM を入れたものや、生ごみをより分け、プランターの底に入れ肥料として利用し、今年も元気な野菜が次々と実り、職員や信徒の方々にも分かち合うことができた。また信徒の方や職員の方からいただいたものを料理し、少量であるが一人暮らしの高齢者に届けるなどしている。5 月には屋上に先輩方が育て残して下さった色とりどりのバラの花が咲き誇り、こども園にもあちこちに飾られ、ばらの香りに包まれた。



その活力になる水は、野菜と同じく雨水を貯めて利用し節水の一助としている。また、冷蔵庫や食品庫の点検、整理など心掛けて行い、冷蔵庫での野菜などはガーゼの濡れたふきんで包みジッパーに入れて新鮮さを保っている。また、油を使った時のフライパンは、使い古しのふきんで拭き取ってから洗い、下水汚染に気をつけている。段ボールやチラシ・古本などはリサイクルへ出し、ペットボトルや空き瓶・広告紙は、物入に再利用している。秋になると園の周りの桜並木の葉が散り、道路を敷き詰めるため掃き掃除をし、住民の方々をはじめみんなが住み心地の良い環境づくりに心掛けている。

神さまは私たちのためこの世界を創造され、「見て、良しとされた。」(創世記 1 章)そしてその調和のとれた世界を私たちに委ねられた。しかし私たち人間は消費主義にはしり、何も話せない自然・地球は傷つき、温暖化などで気候変動を起こし、干ばつ・洪水・飢饉など様々な自然災害を引き起こしている。中村大司教様が「地球は傷ついているのでリバテープを張ってあげなければ」とおっしゃるように地球は叫びをあげている。また、戦争をはじめ虐待・貧しさのため人のいのちが脅かされていることを思う時、私たちは創造主である神のみ心を思い、神が造られたいのちに寄り添い、支え合う恵みを祈り、小さな心遣いであるがエコロジカルな回心を目指し歩みが続けて行きたい。